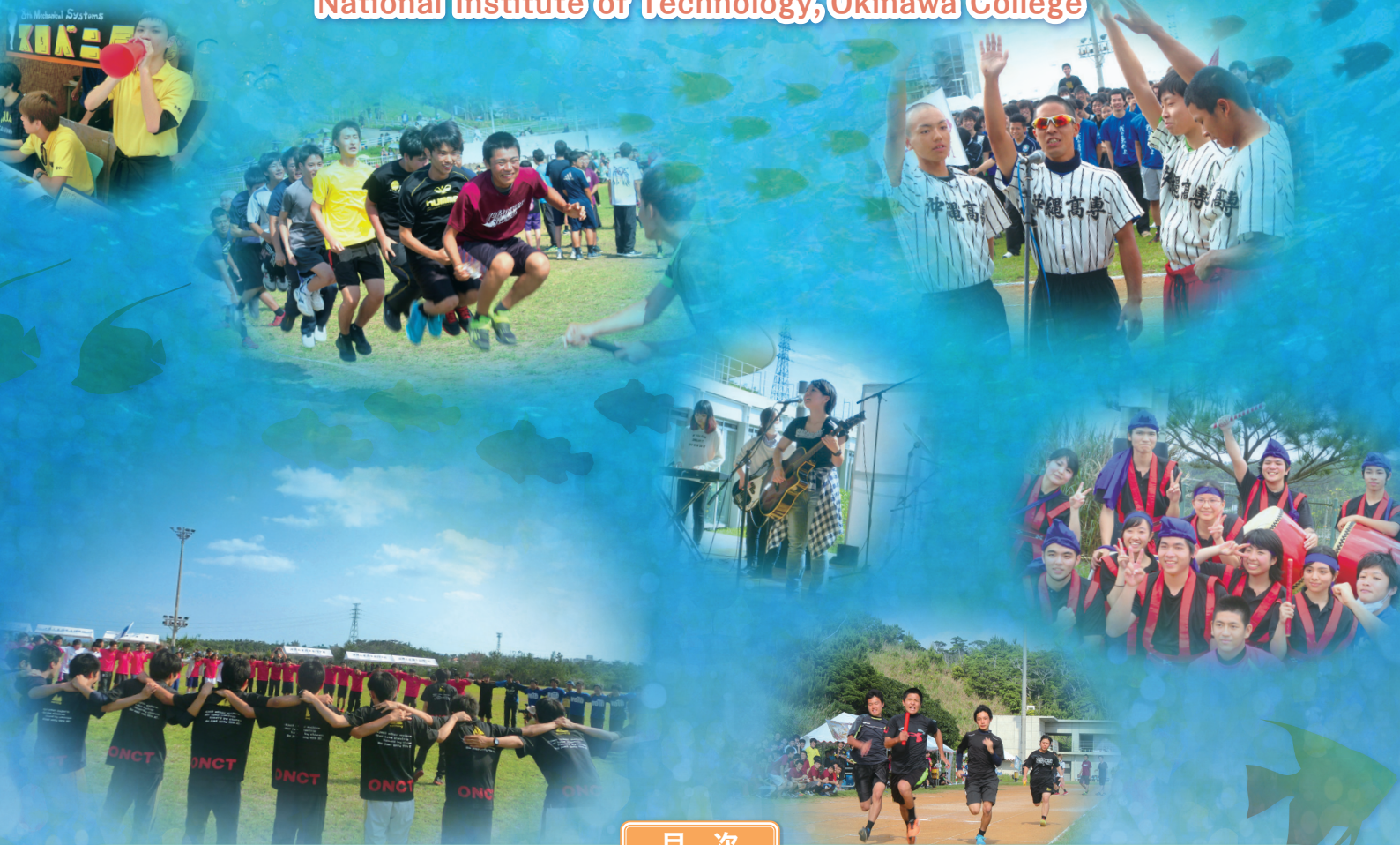




沖縄高専だより

National Institute of Technology, Okinawa College



目次

- | | | | |
|--|-----|--|----|
| 1. 校長より | 2 | 11. キャリア教育センター活動紹介 | 11 |
| 2. 総務主事・教務主事あいさつ | 3 | 12. 学生会より | 12 |
| 3. 学生主事・寮主事あいさつ | 4 | 13. 寮生会より | 14 |
| 4. 後援会長・事務部長あいさつ | 5 | 14. オープンキャンパス・サマースクール開催について | 15 |
| 5. 第1学年主任・第2学年主任より | 6 | 15. グローバル交流推進センターの活動報告 | 16 |
| 6. 学科長より | 7~9 | 16. 平成28年度 九州沖縄地区高等専門学校
体育大会の結果について | 18 |
| 機械システム工学科・情報通信システム工学科
メディア情報工学科・生物資源工学科・総合科学科 | | 17. 平成28年度 九州沖縄地区高等専門学校
体育大会結果一覧 | 18 |
| 7. 専攻科長あいさつ | 9 | 18. 図書館より | 19 |
| 8. 教育福祉推進室より | 10 | 19. 平成28年度 人事異動について | 19 |
| 9. 保健室より | 10 | 20. 平成28年度(後期)行事予定表 | 20 |
| 10. 地域連携推進センター活動紹介 | 11 | | |

沖縄工業高等専門学校
校長 安藤 安則



2016年7月7日から8日にかけて超大型台風第1号が沖縄本島に接近し、そして先島諸島に影響をもたらしたと聞いており、保護者や同窓会関係者におかれては被害が最小限に止まりますように祈っております。

さて、平成27年度の就職・進学状況を振り返りますと、本科卒業生145名の内、68%が就職を、32%が専攻科や大学への進学を希望し、全体で95%がそれぞれ希望通りに進み、残りは就職活動を続け、自営業や進学浪人をする事になりました。また、専攻科修了の27名の33%が進学を、67%が就職を希望し、全員望みを実現できました。

次に平成27年度における沖縄高専の学生諸君の活躍を紹介しますと、「KOSEN発“イノベティブ・ジャパンプロジェクト”」2015年度社会実装教育フォーラムでの口頭発表部門・ポスターセッション部門「社会実装大賞」及び「社会実装着想賞」を受賞、「ICTビジネスモデル発見&発表会」において本校の本科1年生3人の女子学生チーム「ピュアの極み乙女」が総務大臣賞を受賞、第16回「理工系学生科学技術論文コンクール」で「特別賞」2名受賞等、数々の輝かしい成果を上げました。

また平成27年度の沖縄高専の外部ファンド獲得額は全国51国立高専の中で昨年度に引き続き、全国一を維持し、さらにその差を大きくあげましたことは、偏に沖縄高専を応援して頂いている皆様のおかげと考えております。

昨年お知らせしましたように、沖縄の21世紀ビジョンに基づく沖縄の発展計画に対応し、平成27年度より日本の航空会社(ANAやJTA)や重工業メーカー(MHI,IHI)等のご協力を頂き、更に九州大学工学部航空宇宙専攻部門のご協力も得て、国立高専として初となる「航空技術者プログラム」を開設し、本28年度末には最初のプログラム修了生を送り出すことになります。また、昨今、社会的に重要視されている情報セキュリティ人材や医工連携人材育成等のプロジェクトにも国、県、企業や他の高等教育機関等と協力して積極的に取り組んでおります。

本校は、前述の教育研究活動を推進するに当たり、機械システム工学科、情報通信システム工学科、メディア情報工学科、生物資源工学科の本科4学科と各学科共通の教養科目を担当する総合工学科、本科卒業等の後に更に高度な専門教育を行う2年制の専攻科を置いて、其々の専門性に優れ、コミュニケーション能力を持ち、地域貢献に意欲的な人材を輩出してきております。我々教職員は沖縄高専の関係者と一体となって、より良い教育環境の実現に向けて精進してまいりますので、今後ともご支援のほど宜しくお願い申し上げます。





総務主事あいさつ

総務主事 平山 けい

昨年度に引き続き総務主事を拝命いたしております生物資源工学科の平山けいです。沖縄高専は今春13年目を迎えました。皆様の本校に対する開校当初から変わらぬご支援とご協力により、優秀な学生を世の中に輩出することが出来ています。心より感謝申し上げます。

さて、総務主事は校長を補佐し、教務、学生、寮務の各主事が所掌するものを除く予算・規則・評価・将来計画などの管理運営を担当しております。今年度は年度当初に熊本で大きな地震がありました。熊本出身の先生方、熊本方面へ就職または進学している卒業生もおります。同じ九州沖縄地区には熊本高専、大分高専もあります。九州沖縄地区高専大会等で知り合い友達になった熊本や大分高専の学生の安否を心配する本校の学生も数多くおりました。ご実家が影響を受けた教員がおられましたが幸いにご家族やまた熊本・大分両高専の学生への影響もなくほっとしているところです。後援会の皆様からも、いつ起こるかかわからないこのような災害に対する本校の危機管理体制に関してご質問等いただいております。本校としては、学生の安全確保を第一と考え管理体制や対応の在り方を今一度見直し刷新のための準備をしております。今後学生寮での対応なども含めて保護者の皆様にご協力をお願いすることが多々あるかと存じます。その際はどうぞよろしくお願い致します。地震などの災害時だけでなく台風対応に関しても学校から保護者の皆様への連絡の在り方を現在再検討しております。後期には新しい連絡体制を整えていける様動いていることをお知らせいたします。また、この際も保護者の皆様のご協力が必要です。どうぞご理解とご協力をいただけますようよろしくお願い致します。

最後になりましたが、何よりも地元沖縄に愛される、地域の皆様に還元できる高専として昨年度より改革を推進しております。今後の本校の改革の動きにご注目いただきたく存じます。

本校にご支援ご協力をいただいている産学連携協力会会員、後援会、保護者、同窓会の皆様にご場を借りて心より御礼申し上げます。微力ではございますが今年一年総務主事として沖縄高専の更なる発展のために邁進する所存です。



教務主事あいさつ

教務主事 眞喜志 隆

本年度より教務主事を拝命いたしました機械システム工学科・眞喜志隆と申します。教務主事は本校の副校長として校長を補佐し、学校運営の中でも学生の日々の勉強に関する教務の取りまとめを行う立場となります。沖縄高専も創立13年目をむかえます。今年度はこれまでの歩みを振り返り、これからの新しい10年に向けてどのように進んでいくべきかを考え、教育カリキュラムの見直し・アクティブラーニングの推進・教員の教育力向上に向けた施策の検討を行ってまいります。

沖縄高専は高等教育機関に属しており、工学系の専門教育を早期に行い、実践的な技術者を養成していくことで産業界や大学から高い評価を得ております。高専での教育の基本的な考え方は、「学生が自ら学んでいく」というものです。

学生諸君は、本校へ入学した時の気持ちを忘れず、常に自ら学んでいくよう心がけてください。新入生では高専の雰囲気にも慣れてきたころだと思います。自分になりたい、あるいは進みたい分野に行くには、これから何をどのように学べばいいのか、あるいは将来はどのような道に進むのかといったキャリアパスに関する取り組みもこれから始まります。高学年では、実際にインターンシップでの企業体験や就職活動が始まっています。今後の学校生活を考えて、また卒業した後の進路の中でも、自ら学んでいく姿勢を大切にしてください。さて、次年度より追認試験に関する規則が変わります。これまでは特例として、3～5年次学生は進級認定会議や卒業認定会議後に追認試験を実施することがありましたが、次年度よりこの制度は廃止されます。また進級要件も改訂されます。このため、日々の継続した学習がより大切になります。教職員は学生の支援に労力は惜しみません。クラスや学科の仲間とお互いに高め合い、ともに成長することで技術を修得して行ってもらいたいと考えています。繰り返しますが、自ら学んでいく姿勢を忘れないでください。

保護者の皆様、高専は中学卒業生を受け入れ、卒業までに大学生と同等の専門知識や技術の修得を目的に技術者を育てるためにつくられた学校です。高専での学生生活は普通高校と比べればかなり忙しく、また、進路に悩む時期でもあります。教職員も学生の進路指導を支援していくことは当然として、保護者の皆様も学生本人との会話を密にお願いいたします。加えて、本校教職員との情報交換や共有を図っていただき、学生の健全な育成へのご支援ご協力をお願いいたします。





学生主事あいさつ

学生主事 伊波 靖

日頃より本校の学生指導や課外活動へのご理解とご支援に感謝申し上げます。

昨年度は8月21日から8月23日にかけて全国高専体育大会の卓球競技が本校を主管校として実施され、台風の影響も多少ありましたが成功裏に終了することができました。全国大会の開催にあたっては後援会からのご支援並びにご協力もいただき、重ねて感謝申し上げます。

今年度も4月の体育祭を皮切りに高校総体、高校野球選手権沖縄大会への参加や九州沖縄地区高専体育大会への参加など学生の課外活動が活発に行われています。課外活動に対しては派遣費の補助をはじめとして、後援会よりのご支援や、日頃の練習への保護者の方々のご協力や大会会場への引率などに対して心より感謝申し上げます。また、九州沖縄地区高専体育大会につきましては、弓道競技(7/9、10)と水泳競技(7/16、17)の担当校として沖縄県内において開催いたします。

車両通学に関しましては、6月の沖縄高専交通安全旬間に交通安全講話を実施し、学生会を中心とした交通安全啓蒙活動を行って参りました。昨年度は、幸いにして大きな交通事故は発生いたしませんでしたが、車両通学許可願の提出状況が年々低下しており、無届けの車両通学が増えてきております。車両通学をしている学生の保護者におかれましては、ご家庭で交通安全について話し合いを持っていただき、車両通学許可願の提出についてもご指導いただきますようお願いいたします。

学生の生活面に関しましては、今年度は例年に比べて学生の懲戒処分も減少しております。学生の携帯電話やスマートフォン等の携帯端末の利用に関しては、引き続き学校としても指導を行ってまいります。ご家庭でも携帯端末の正しい利用に関して話し合いを持っていただきますようお願いいたします。

全ての学生が無事卒業し良き社会人として巣立っていくためにもより良い学校生活の実現に向けて今後とも努力いたしますので、学校へのご支援・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



寮務主事あいさつ

寮務主事 濱田 泰輔

本年度の寮行事は4月2日の入学式、3日の入寮式および開寮式で始まりました。

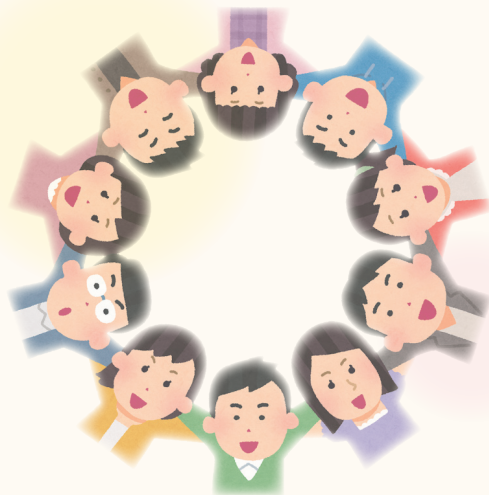
13期生になる新1年生163名、3年次編入の留学生3名の新入寮生を迎えました。本科2年生から専攻科生までの380名と併せて全543名での生活が始まりました。

新入生の皆さんは沖縄高専に入学しての授業や実習など初めての体験に戸惑ったこともあったことと思います。その上、寮生活という共同生活に慣れるのは大変だったのではないのでしょうか。寮での生活は、寮生会の役員をはじめ寮生のみんで工夫や改善をしてより良くしていったほしいと思っています。そのためには、新入生の皆さんもできる限り寮生会の活動に参加して、学生寮の運営に携わってもらいたいと思っています。

2年生以上の寮生の皆さんには1年生から専攻科にわたる寮生が共同生活をしていく中で、それぞれの寮生一人一人がどういう生活をすべきか考えながら生活してほしいと思います。進級して学年が上がっていくにつれて寮日課をはじめ寮生活に不便さを感じることも増えてくるかもしれません。授業、研究、課題の作成、各自の学習に支障が無いよう各自の生活はきちんと自己管理して欲しいと思います。また、寮生の皆さんからの意見や提案等も寄せてほしいと思っています。

寮生の皆さんにとって、寮生活は生活の場あるいは通学の利便のためだけではなく、規律ある共同生活を通して自分の責任で行動し、生活する力を身につけると共に他の寮生のみんのことも配慮し、皆で互いに助け合い、それぞれを尊重し、生涯の友情を育てて欲しいと思います。

寮生の生活には保護者の皆様と学校の密接な連携が必要です。学校へのご支援、ご協力およびご助言をよろしくお願い申し上げます。





後援会長あいさつ

後援会長 森脇 雅佳

本年度から後援会会長に就任しました森脇雅佳と申します。どうぞよろしくお願い致します。

例年ちやたんニライセンター（北谷町）において開催しておりました年次総会ですが、本年度は初の試みで沖縄高専メディア棟視聴覚ホールにて6月4日に開催致しました。参加人数や内容等の課題は残りましたが、おかげさまで全ての議案が滞りなく承認されました。

さて、本会は沖縄工業高等専門学校における教育・研究事業を支援するとともに、会員相互の交流・連携を図ることを目的に活動しておりますが、実績をいくつかご紹介させていただきます。

まず、沖縄高専が主管校、本会より実施経費の一部を支援した大きなイベントとして、昨年度は全国高専体育大会（卓球競技）が沖縄県那覇市で、本年度は九州沖縄地区高等専門学校弓道大会と九州沖縄地区高専体育大会（水泳競技）が7月に同じく那覇市で開催され沖縄高専教職員スタッフをはじめ他校や連盟等関係各位の協力を得ながら無事に競技を終えることができました。関係者の皆様に改めて感謝申し上げます。

次に本会が力を入れて支援しております昨今の学生の課外活動における活躍ですが、昨年度は全国高専体育大会ヘテニス部・弓道部・水泳部が出場、プログラミングコンテスト本選で特別賞・敢闘賞を受賞、パソコン甲子園本戦でベストアイデア賞・審査員特別賞の受賞をはじめ、様々な大会やコンテストに出場して優秀な成績を収めました。本年度も多くの学生の課外活動における活躍が期待されるところです。

また、学生の進路指導の支援については、キャリア教育センターを中心に教職員の皆様が精力的にインターンシップ先への訪問や新規進路開拓などに取り組んでいた結果、年々訪問先の増加傾向にあります。本会としても、インターンシップ実施が就職・進学の一助となることを考慮し、引き続き支援をして参りたいと思います。

最後に会員相互の交流・連携についてですが、本会は普段8つの支部に分かれて支部単位での活動しております。各支部では理事や世話役の方々が知恵を絞って会員の交流の場をつくるべく、色々なイベントを企画しています。各支部からの案内状が保護者の皆様のお手元に届きましたら、まずは開封して内容をご覧ください。そして、積極的にご参加ください。必ず何か身になる情報が得られるはずです。学生も参加可能なイベントがあれば、ぜひお子様にもお声掛けください。皆様の参加を楽しみにお待ちしております。



事務部長あいさつ

事務部長 富田 和宏

本年4月に着任以降、保護者の皆様をはじめとして、地域や企業などの沖縄高専に対する期待の高まりを日々感じ、これに応えるべく精一杯努力する所存です。

このたび、安心安全な学習環境の一環といたしまして、長年の要望事項でありました高専周辺の街路灯設置について、国道事務所および地元辺野古区の皆様の深いご理解とご協力により実現の運びとなりました。日没時刻も早まる中、防犯効果をも期待するところです。

さらに、津波・高潮避難の目安となる海拔表示を校内各所におこなうとともに、学生の約65%が入寮者であることなどから、地元自治体とは別に本校独自の災害備蓄飲食物などの充実を検討しております。

本年も「給付型奨学金」の拡充や「トビタテ! 留学JAPAN」など政府等の就学支援策もありますので、改めてご案内申し上げます。

また、沖縄高専では、教育環境の充実を図るため寄付金の受付をしております。個人では、所得税および住民税、法人では法人税の軽減措置もございますので何卒ご検討いただければと存じます。

今後とも沖縄高専の学生の皆さんには、楽しく有意義な学校生活を過ごせるよう努力いたしますので関係諸兄のご協力をよろしくお願いいたします。





第1学年主任より

第1学年主任 小池 寿俊

今年度は本当に久しぶりに学級担任をやることとなり、「勉強!」「レポート!」「遅刻しない!」と、日々クラスの学生を指導しているのですが、ときどき、高校生の頃の自分がいまの沖縄高専に入学したとしてちゃんとやっていけたらどうか、と考えることがあります。高校生の頃の私は、苦手な科目はあまり勉強せず、そもそもどのように勉強すればよいか分からない科目もあり、レポートなんかほとんど(まったく?)なかったし、寝坊した朝も家族が起こしてくれた…。それと比べると、現在の学生の周囲には、昔はなかった携帯・スマホ、パソコン、ゲーム機、インターネット、このような多くの便利で魅惑的(?)なもののさえあふれています。もちろん本校の1年生は、寮生として食事以外の洗濯、掃除等の身の回りのことも自分でやらなければなりません。もし昔の私がいまの沖縄高専1年生だったとして、ちゃんとやっていった自信はまったくありません。本校の学生はとても頑張っています。保護者の方から見れば物足りない点も多々あるかとは思いますが、その点はしっかりと認めてあげていただければ、と思います。

とは言え、入学後3ヶ月も経つと、少しずつ心配な1年生も増えてきました。成績が振るわない学生、授業に集中できない学生、遅刻が気になる学生、寮規則の減点が重なる学生、等々。すでに何度も使いましたが、中学や高校とは異なり、本校ではそこで学ぶ者たちを「生徒」ではなく「学生」と呼びます。この「学生」という言葉には、自ら主体的に学び行動する者という意味が含まれています。本校は高校に比べれば確かに自由な面が多いですが、科目の合格基準が60点であることから分かるように、学習状況によっては高校よりも厳しい結果に直面する場合があります。もちろん頑張れば自分の思い描いていた将来に近づくこともできますが、いずれにせよ、学習、生活等の自分の行動の結果は学生として自分で受け止めなければなりません。日頃から我々担任はその点を指導しておりますが、保護者の皆様からのご指導いただければ幸いです。いくら学生とは言え、まだまだ15、16という年齢です。学習面だけでなく学校生活全般についてもご家庭で話をしていただき、将来についても少しずつ方向性が定まるよう導いていただきますようお願いいたします。

我々担任はお預かりしたお子様がより豊かで充実した学校生活を過ごせるよう、微力ながら尽力いたしますので、保護者の皆様におかれましては、引き続きご支援とご協力を賜りますよう、どうかよろしくお願い申し上げます。



第2学年主任より

第2学年主任 星野 恵里子

早いもので、2年生の生活も半分を過ぎようとしています。体育祭や中間テスト、期末テストを終え、どのような気持ちで過ごしているのでしょうか。1年生という後輩ができた反面、勉強面や生活面で中だるみがみられる時期でもあります。遅刻や欠席、または授業中の居眠りが目立つようになる時期でもあり、定期試験の結果を見て3年次進級を心配し始める時期でもあります。もし、授業中にわからないことがあったら、積極的に担当教員に質問してほしいと存じます。その場で質問することに抵抗を感じる場合は、放課後などに教員研究室の扉をたたいていいのではないのでしょうか。教員は学生から質問を受けるのはうれしいはずですから、きっと忍耐強く噛み砕いて説明してくれるはずです。また基本的なことですが、食事は十分にとれているでしょうか? 「面倒くさい」の一言で朝食抜きで登校する学生の姿も見受けられます。食事や睡眠は、まだまだ成長期にある学生にとってとても大切なものです。「わたしはわたしの食べたものでできている」というCMがありましたが、将来の学生の体は、今まさに食べているものが土台となっていきます。このようなことを疎かにしていると、今一番の頑張りが必要な時に、頑張れなくなってしまいます。どうか疎かにしないでいただきたいものです。

3年生になると、クラスは学科ごとに構成されますので、混合学級はこの学年が最後になります。後期には最大イベントである「高専祭」が控えています。混合学級で実施する最後のイベントといっても良いでしょう。どうか、悔いが残らないように、学生の皆さんが全力で取り組み、生涯の思い出にしていけるように我々教員もバックアップしていきたいと思っています。

保護者の皆様方、今後とも、ご協力とご支援のほどをどうぞよろしくお願い申し上げます。





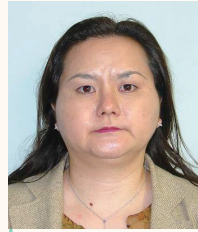
機械システム工学科

学科長 比嘉 吉一

皆さんに質問をします! 「機械工学」と聞いて、どのようなイメージを持っていますか? 率直なところ、「機械」はイメージできて、「工学」なるキーワードはなかなかの強敵で、簡単に説明できないのでは? と想像しますが、如何でしょうか?

筆者自身の経験を思い起こしますと、実家は円筒研削盤を用いた特殊精密加工(エンジン部品研磨用治具)と熱処理で生計を立てていたこともあり、大学進学の際も「工学」はすっ飛ばして「漠然としたプラスイメージ=機械だったら将来なんとかなるかな…」で進学をしました。学生時代に学んだ数多くの専門科目についても、「機械設計…」や「機械工作…」といった科目は想像できましたが、その他の難解な名称の科目については、直接「何に」結びつくのか想像もせず、黙々とこなしていたような気がします。卒業年次を含め、たくさんの進路選択の場面で逡巡し結論を先延ばし続けた結果、恥ずかしながら企業での就業体験・就職活動も無しに現在の教育・研究職に就いております。その一方で、これまでに会った諸先輩方・同級生・後輩達も、おおよそは「機械工学」をベースにさまざまな業種・分野で活躍されております。これは、「機械工学」があらゆる産業基盤を支える学問・技術分野であり、ものづくりに必要不可欠な領域であるからです。一例として、この日本において「機械工学」分野で活躍されている技術者、研究者、学生および法人の国内最大級の会員組織である「一般社団法人・日本機械学会(The Japan Society of Mechanical Engineers)」を紹介致します。当該学会は、機械に関する幅広い学術分野をカバーしております。この学術分野を列挙しますと、筆者が研究の主分野としております計算力学を皮切りに、本校機械システム工学科で開設する専門科目である材料力学、機械材料・材料加工、流体工学、熱工学、機械力学・計測制御、ロボティクス・メカトロニクスのほか、バイオエンジニアリング、エンジンシステム、動力エネルギーシステム、環境工学、機械潤滑設計、設計工学・システム、生産加工・工作機械、生産システム、情報・知能・精密機器、産業・化学機械と安全、交通・物流、宇宙工学、技術と社会、マイクロ・ナノ工学、スポーツ工学・ヒューマンダイナミクスの以上22分野にも及びます。これは、「機械工学」技術者が「工学」的なセンスをベースに様々な領域・分野において活躍が期待されていることを示しております。すなわち、「機械工学」技術者は、そのセンスを磨くために非常に広範な知識領域を求められ、その結果として、大変厳しいですが一番勉強の忙しい学科であると言えます。ただし、この守備範囲の広さそのものが「機械工学」の最大の強みでもあるのです。

改めて質問します! 皆さんはどのような思いを胸に、機械システム工学科への入学を決めましたか? 上記に挙げた分野での活躍を目指してのことでしょうか? それとも、筆者と同じで何となく選択したのでしょうか? いずれにしても、縁あって顔を突き合わせる事となったわけですから、同級生のみならず先輩学生、教職員を含む大人との数多くの有益なコミュニケーションを通して、できるだけ早い段階で自分自身が活躍する(であろう)明るい未来を想像してみてください。皆さんの活躍する場は、上記に挙げた分野のみならず、皆さんが新たに創生する分野かも知れません。是非、皆さんの想像する明るい未来のための日々の努力を怠らないでください。無限の可能性を有する皆さんの活躍を期待しております。



情報通信システム工学科

学科長 兼城 千波

沖縄高専は「人々に信頼され、開拓精神あふれる技術者の育成により、社会の発展に寄与する」という理念を掲げ、今年で13期生を迎え、新たな年度をスタートさせました。これまでも、そしてこれからも日頃の授業だけでなく、部活動を含めて、様々な形で教職員は学生の皆さんをサポートし、社会に貢献する人材を輩出すべく邁進しております。多様化する学生、その時代、その時々で変わりゆく社会ニーズに則した人材を育成することは簡単なことではありません。

15~20歳という著しい成長期においては、様々な経験をする機会はたくさんあります。“今、するべきか?”をその時々できちんと考え、人の話をしっかり聞き、行動することが、自分自身の成長へと繋がっていきます。これまでと異なった生活環境、学習環境は精神的にも体力的にも、皆さんに少なからずストレスとなり、その過程の中で辛いことも逃げ出したいこともあるかもしれません。そのときは、周りの友人、先輩や保護者、教員に相談してください。相談することも、成長への糧となります。また、成長していく中で、自分の適性を見つけ出してください。達成すべき目標は個々人で少しずつ異なってきます。時間をかけずに目標達成できる場合、時間をかけなければ達成できない場合、何をどんなレベルで目標設定しているかで、達成する時間も変わってくると思います。しっかりと自分の個性を考え、計画的に行動すること、諦めずにやり遂げること、それがやがて「力」となって、貴方たちの道を拓いていきます。

さて、情報通信システム工学科に入学した皆さんは、個人個人が高い志を持ってここにいるはずですが、どんなことを学ぼうとして入学しましたか? 「情報通信システム」に関わる分野は非常に幅広く、スマートフォンや家電製品の他、様々な電子機器の制御に至るまで世の中の経済活動を支えている分野です。1年生から学ぶことも多く、数学や物理といった基礎的なところから、電気電子回路やプログラミングといった電気電子工学分野・情報工学分野と広い領域を網羅しながら学修していきます。レポートなどの課題で四苦八苦することもあるでしょう。しかし、長い目で将来を見据えれば、電子機器を操る電子・情報・通信系技術者は常に必要とされる人材です。必ず、自分が学修してきたことが、人と関わってきたことが活かされる日がやってきます。将来の自分を信じて、今、何をすべきかを考えて、一歩ずつ前に歩き出しましょう。



メディア情報工学科

メディア情報工学科長
姉崎 隆

お陰様で、今年3月にメディア情報工学科本科から37名、専攻科(情報工学コース)から3名の学生が巣立っていきました。うち、1名は東京大学工学部に編入学を果たしました。それぞれの進路での活躍を期待しています。また、4月には13期生42名(女子学生10名)、専攻科生1名(情報工学コース)を新たに迎えました。また、モンゴルよりの留学生1名を3年次に迎えました。新入生の皆さんには卒業までの期間、入学時の夢や希望を実現出来るよう頑張ってもらいたいものです。タイ国から2名の大学生が、6月から2カ月間インターンシップを行っています。学生の皆さんには、グローバル化を実感できる良い機会になっていると思います。

さて、当学科が担当するコンピュータの分野において大きな変化が起こりつつあります。社会ではAI革命と呼んでいます。これはロボットだけではなく、コンピュータシステムでも人工知能の名称で変革を巻き起こしています。グーグルが開発した囲碁AIのAlphaGoが韓国の天才棋士に圧勝、世界中が驚きました。IBMのワトソンは既に日本の金融機関にも導入され、顧客からの問い合わせの振り分けに使われています。こうしたAI革命は労働現場も変えていきます。当学科の学生は、それらを使いこなし、乗り越えていくべきと考えます。次第です。

一昨年より本校は、特例専攻科、航空技術者プログラムの取り組みを始めています。これらは、高専機構が推進する高専課程高度化取り組みの一環であります。プログラミング技術を一通り修得すれば、次は社会に出て実力を磨きたい。メディア情報工学科学生の平均的な考え方です。ただ、上に記したAI革命の進展のように、高専におけるプログラミング技術においてもじっくり腰を据えて専門技術を深めるべき状況になりつつあると感じています。

このような取り組みの下、メディア情報工学科生の育成に努めてまいります。引き続きご理解とご協力をよろしくお願いします。



生物資源工学科

生物資源工学科長
三枝 隆裕

生物資源工学科の第一の特徴は、全国51高専のうち、沖縄高専にしか存在しない学科名であるということです。生物資源工学科の第二の特徴は、微生物や植物、海洋生物などの生物資源を活用した研究(食品、医薬、化粧品、環境関連など)を行うことであり、そのためには白衣を着て行う繊細な実験が必要になります。さらに、生物資源工学科の定員40名のうちおよそ半数を女子学生が占めていることが第三の特徴になるかと思っています。

生物資源工学科における研究内容としては、沖縄の亜熱帯植物資源(月桃、パパイヤ、ノニ、ハイビスカス、シークワーサー、琉球藍、海藻、薬用植物など)の機能性、ガン細胞の増殖抑制作用、再生医療の細胞培養、泡盛の発酵解析、生物資源の発酵利用、昆虫やキノコの生産酵素の解析、サンゴの持つ機能性、植物や甲殻類の分化や分布、植物の耐暑機能、エビ養殖水質浄化などに関する研究に加え、衝撃波の殺菌や加工への応用など多岐に渡っています。

従って、理科や化学、生命の不思議、色々な実験で創意工夫をすることが好きで、医学や化粧品、化学、食品などのバイオ関連企業への就職(主な就職実績:三洋化成工業、旭化成、サントリー、花王、第一三共プロファーマ、雪印メグミルク、沢井製薬、大同薬品工業、資生堂、オリオンビールなど)、または農学系や化学系大学に進学(主な大学3年次編入実績:北海道大学、筑波大学、帯広畜産大学、東京工業大学、長岡技科大、愛媛大学、佐賀大学、九州大学、琉球大学など)を希望する人には最適な学科だと考えております。

さらに、生物に関する高度な専門知識や研究技術の習得だけではなく、人間性、協調性、創造性、国際性を培い、国内外企業や研究機関などで中心人物となる人材作りにも力を注いでおります。これからも、皆さまのご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。





総合科学科

総合科学科長 成田 誠

総合科学科では自然科学や科学技術の理解・応用のための基礎知識・学力を身につけるための教育を行っています。大学などと同様、高専も高等教育機関の1つであり、授業科目は所謂一般科目と専門科目に大別されています。この一般科目を担当するのが総合科学科の教員です。現在総合科学科には、文科系（国語2名、英語6名、社会1名）、理科系（数学5名、物理学1名、地学1名）、体育系（健康科学2名）の計18名の教員が在籍しています。

担当する学年は主に第1、2学年の低学年であり、授業をはじめとする学習指導のみならず、担任として学生生活指導もその任務となります。実際、18名中16名が主担任及び副担任に就きます。沖縄高専では第1、2学年において混合学級制（各学科から約10名ずつ、1クラス約40名、4クラスを構成）を採用しており、学科の垣根を越えて学生同士が交流できるのみならず、我々総合科学科の教員も学科の区別なく学生と関わる機会が与えられています。教授する内容が一般科目、基礎科目であるが故当然ではありますが、この沖縄高専に在籍する全ての学生と必然的に関わるのは総合科学科の教員のみで、ここに大きな充実感と共に責任を感じ得ずにはいられません。

私見を少々。基礎科目の重要性を、基礎を学んでいる最中の者が理解することは難しいことでしょう。恐らく、基礎を「（専門に比べて）簡単なこと」、「つまらないこと」、「専門では不要になること」などと思っているからでしょう。残念ながらこれらは全て誤解であることが自ら確認できます。高学年になって専門科目を学習するようになってから、後悔と共に。故に楽観することなく、悔ることなく飽くなき反復練習によって基礎固めをしてもらいたいと思います。一方で、低学年時の成績の良し悪しに一喜一憂することはないと思います。大学受験などが控えているわけではないのですから、「この日までに100点満点中80点取らねばならない」といった学問を狭く捉えること（ペーパーテスト至上）は無意味です。卒業するときに科学技術者として真っ当な知識と能力と倫理観を備えていることこそ重要です。それには前述同様、日々の努力以外にありません。そしてその努力は必ず身を結びます。たとえ時間がかかったとしても。

結びに、総合科学科教員一同教育に尽力して参りますので、特に低学年の保護者の皆様とは吉凶禍福何れの際にも接する機会が多いかと思いますが、どうかよろしくお願いいたします。



専攻科長あいさつ

専攻科長 眞喜志 治

今どきは、多くの教育機関において、グローバル化に対応できる人材育成に取り組むことが当たり前ようになってきており、それに対応したカリキュラムを構築あるいは検討しているように思えます。一方で、それぞれの地域に根差した、その地域に必要とされる教育機関になることも求められているようにも見受けられます。一見、相反すると思われるこれら二つのことを、一つの教育機関で両立させることは可能でしょうか？

「グローバル化に対応できる人材」といっても、単に「英語の得意な人材を育てればよい」というものではないように思います。自国の歴史・経済や文化等を理解し、他国のそれらを理解、尊重できる素養を持つこともグローバルな人材にとっては必要なことだと思います。英語は、そのためのツールの一つに過ぎませんので、「グローバル教育＝英語教育」と認識しない、させないように注意する必要があると思います。もちろん、英語を話し、読み、そして書くことについて高い能力を持っていることが不利益になることはありませんので、英語に一生懸命取り組める環境を作ることは重要なことの一つだと考えます。

十分な知識や技術を持って世界を相手に活躍できる人材を育てるべきか、あるいは、地域の活性化、地域の発展に尽力できる人材を育てるべきか、はたまた、その両方を兼ね備えた人材を育成するのか、いずれを目指すのかについて、各教育機関に委ねられているのが現状でしょう。いずれを選択したとしても、教育機関が責任を持って人材育成に取り組まなければならないことには変わりはないと思います。

さて、沖縄高専専攻科はどのような未来を描いて人材育成に取り組むべきなのでしょう？ 仮に、沖縄高専として、地域に密着すること、地域に貢献すること、地域と共に成長することを目指した先にグローバルな世界があると考えのなら、まずは地域のことを意識し、その中で自身の役割を明確に定めることができる人材を育成し、輩出することが専攻科の成すべき役割となるでしょう。

果たして、本校の専攻科はどの道を選ぶのか？ 育成すべき人材像を明確に示すことができるのか？ まさに今、そのことが問われているのかも知れません。現専攻科長としては、沖縄高専専攻科には、その能力が十分にあると信じて、専攻科が正しい方向に進んで行けるように務めたいと考えています。



教育福祉推進室より



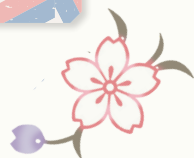
教育福祉推進室長
玉城 龍洋



「学生相談室」が「教育福祉推進室」に変わって早2年が経ちました。現在ではより充実した学生支援を行うために、専門の相談員によるカウンセリングを平日毎日行う環境や居場所に困ったり、他の学生の視線が気になった際に利用できるサポートルームが整備されました。今後も学生や保護者、教員を支援する環境を整えていきます。

困ったことや悩みがありましたらカウンセリングをご利用ください。カウンセリングの予約は、保健室(電話：0980-55-4054、電子メール：hoken@okinawa-ct.ac.jp)にお問い合わせください。

★夏季休業中もカウンセリングを実施します。★



保健室より

暑い夏、日焼け対策、熱中症予防など大切です。又、沖縄といえば海。海水浴など楽しむために危険な生物(ハブクラゲ、カツオノエボシ、ウンバチイソギンチャクなど)について知るのも必要です。

その中でハブクラゲについて、県内ほぼ全域に分布、触手にはたくさんの刺胞(毒針と毒液が入ったカプセル)があります。刺されるととても痛く、ショックを起こすこともあります。



● 刺された場合の応急処置は、

- ① 刺されたら海からあがり、刺された部位はこすらない。(残った刺胞が発射することがあるため。)
 - ② 刺胞の発射を抑えるため酢(食酢)をかける。(ハブクラゲ以外では刺胞を発射させてしまうこともあります。酢がない場合は海水で洗い流し、決して真水では流さない。)
 - ③ 触手を手でそっと取り除く。
 - ④ 痛いときは氷や冷水で冷やす。
 - ⑤ 医療機関で治療を受ける。
- ※ 呼吸や心臓が止まった場合は、すぐに人工呼吸、心臓マッサージを行う。

● 刺されないためには、

ハブクラゲ侵入防止ネット内で泳ぎ、防止ネットがない場合は、長袖Tシャツやスパッツ、ウエットスーツなどを着用し、肌の露出を少なくする。

※ 完全に被害を防げるわけではなく、被害を最小限にできるということです。

(沖縄県HP「気をつけよう!! 海のキケン生物」参照。その他の生物についても確認ください。)

保健室はメディア棟2階にあり、傷病時の対応、学生定期健康診断、健康相談、健康診断証明書の発行、災害救済給付の手続きなど行っています。気軽に訪ねてください。(看護師：高江洲・安里)

▶ TEL：0980-55-4054 ▶ e-mail：hoken@okinawa-ct.ac.jp



地域連携推進センター

沖縄高専では、地域連携推進センターを窓口として、本校の有する人的資源、知的資産、施設を活用し、地域社会との連携・交流の推進、共同研究等による技術開発、及び人材の育成に取り組んでいます。

年間事業としては、沖縄高専フォーラム・情報交換会、月1回の定期技術相談会、企業技術者等との懇談会の開催や共同研究、受託研究、受託試験、随時の技術相談の受け入れ、さらに、各種展示会への出展（沖縄の産業まつり、やんばるの産業まつり等）、知的財産セミナー等を実施しています。

また、地域社会との連携・交流の推進や教育・研究の充実ならびに人材育成に取り組んでおり、小中学生を対象に沖縄高専の設備を利用した体験授業や、小中学校等での出前授業、公開講座・生涯学習講座等を実施し、沖縄高専の教育研究内容を地域へ発信しています。



沖縄の産業まつり（子ども科学教室）



企業技術者等との懇談会



中学生対象体験授業



宮古・八重山地域での実験教室



宮古・八重山地域での実験教室

キャリア教育センター活動紹介

キャリア教育センターは学生が自分の進路を自分で決める力を養うための支援と進学・就職活動の支援をしています。例えば、4学年必修科目の「インターンシップ」では企業実習の受け入れ先を確保することや、学生と企業とのマッチング、ビジネスマナー講座を実施しています。

最近ではインターンシップが企業の採用活動と関連することもあり全国的にもインターンシップ希望者が増えています。そしてインターンシップ参加の学生を選考する企業も増えています。本校「インターンシップ」の目的に賛同し協力して下さる企業・団体とともに学生全員が企業で実習ができるよう支えていきたいと考えています。

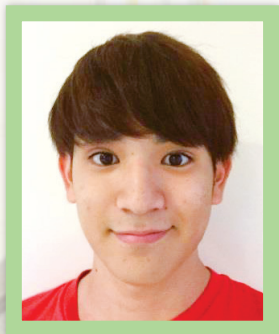
また、学生が業界のことを知りキャリアを考えるうえで企業技術者の方からの働きかけはとても重要です。キャリア教育センターは本校の地域連携推進センター、グローバル交流推進センター、そして地域企業と連携しながら取り組みを進めています。



本校で開催した業界研究会

学生会

会長挨拶



平成28年度学生会長
城間 祥太郎

今年度学生会長を務める、
生物資源工学科4年の城間祥太郎と
申します。今年度は学生の意見を積極的
に取り入れていきたいと考えています。学生
の意見を取り入れることにより、学生一人ひと
りがより良い学生生活を送ることができる
と思います。そのためには、学校全体で
協力していく必要があります。学生
全体が一丸となって、より良い
学校を作っていきましょう!

行事・イベント

沖縄高専には一年にたくさんのイベントがあります。
学生会など学生が主体となって
イベントを運営しています。

部紹介

4
April



体育祭



6
June

文化競技大会

11
November

高専祭

スポーツフェスタ

12
December

寮生会

より



男子寮長

機械システム工学科3年
屋嘉比 悠希

平成28年度男子寮長の屋嘉比悠希です。今年度より3年次の学生が寮長をやるという制度に変わり、大きなプレッシャーを感じながらも、責任のある重要な仕事をこなすべく日々励んでいます。

「より寮生に近い寮作り」を今年度の目標に、寮生の意見を積極的に取り込んでいき、誰もが寮は楽しい、快適だといえるような寮を作りたいと思います。そのためにはなにをすれば良いのかを考えて実行に移していけるよう努力していきます。

私自身、至らぬ点ばかりではありますが、昨年度寮長をはじめとする皆さんの協力のおかげで寮長としての仕事を頑張ることが出来ており、非常に感謝しています。寮長としてこれからも精進して参りますので、執行部ならびに寮生会役員一同をこれからもどうぞよろしくお願い致します。



女子寮長

生物資源工学科3年
仲里 ひろ

平成28年度女子寮長を務めます、仲里ひろです。今年度、初めて寮生会の仕事をさせていただくことになりました。

今年度の寮生会執行部は全員が初めて寮生会に関わることになります。昨年度の先輩方から教わりながら全員で協力して活動しています。先輩から受け継いだ伝統を守りつつ、過ごしやすい寮を作っていきます。寮生からの意見をより多く取り入れて、寮生会と寮生の架け橋を作っていければと考えています。

新しいメンバーで不安も多いですが、寮生会一同頑張っていきます。よろしくお願いします。

寮生会活動報告

5月9日(月)に避難訓練を行いました。男女保安委員長、保健衛生委員長、指導寮生長らが協力し合い、一人一人がスムーズな移動を心がけて取り組んだことで無事に避難訓練を終えることが出来ました。

5月21日(土)、6月18日(土)には特例大掃除を行いました。70人以上の寮生が参加し、寮の清掃に当たりました。

6月24日(金)、25日(土)には久留米高専の寮生会が沖縄高専を視察にきました。寮生会執行部が中心となり、意見交換を行いました。



オープンキャンパス開催！

平成28年7月23日(土)にオープンキャンパスが開催されました。オープンキャンパスは地域の方に本校の教育や学校生活、活動を知っていただくためのイベントです。学科で学ぶこと、専攻科の学修成果、学校の取り組み、寮生活、科学技術に親しみを持つことなどについて企画を考え準備を進めました。また、例年6月下旬に開催をしていましたが、今年度は小中学生の夏休み期間にしました。今年度は約1,000名の参加があり、どの企画にもたくさんの参加がありました。これからも本校の教育・研究・地域貢献について地域のみなさまに理解を深めていただき、ともに地域を盛り上げていく活動を推進してまいります。



OPEN



サマースクール開催！

平成28年8月11日(木・祝)に開催したサマースクールでは中学生約200名が体験授業に取り組みました。学科や航空技術者プログラムの専門をテーマとした授業では、ティーチングアシスタントの学生と一緒に興味津々で楽しく、そして真剣に学びました。本校で多く取り入れられている実験や実習がどのようなものなのか、中学生によくわかっていただけたようです。





グローバル交流推進セン

グローバル交流推進センターでは、沖縄高専の学生の国際交流を推進することを第一の目的として、学生の海外派遣ならびに海外からの留学生や研修生の受け入れに積極的に取り込んでいます。最近の活動を幾つか紹介します。

2016年3月16日(水)～27日(日)には、台湾の国立台北科技大学において国際交流プログラムを実施しました。九州・沖縄地区4高専(北九州、有明、都城、沖縄)から16名の学生が参加し、中国語教育、企業見学、共同実験、異文化体験、学生交流、自由行動が組み込まれました。

2016年6月1日(水)には、タイからの短期研修生3名を受入れました。タイのKing Mongkut's University of Technology North Bangkokから2名が2ヶ月間、Pathumwan Institute of Technologyから1名が3ヶ月間、沖縄高専に滞在し、共同研究、日本文化体験・学生交流などの活動をしています。

2016年7月9日(土)には、本校の海外留学生4名が第10回日本語弁論大会(名護市国際交流協会主催)に出場し、「最優秀賞」、「優秀賞」、「最良賞」を独占しました。

2016年7月11日(月)～20日(水)には、独立法人科学技術振興機構(JST)の支援を受け、台湾の国立台北科技大学から10名の学生を招聘して「さくらサイエンスプログラム」を企画・実施しました。沖縄高専における先端的な高周波回路設計・実装・評価技術の体験研修を中心に、学生との交流授業、研究室見学などを通して、アジアのゲートウェイである沖縄の様々な科学技術、文化活動の先進的な取り組みを学びました。

2016年7月28日(木)には、タイのSrinakharinwirot大学との学術協定の調印式を行いました。本協定によって教職員の共同研究先や学生の海外インターンシップ先などの充実に貢献します。

2016年8月には、九州沖縄地区の高専で連携推進している「9高専連携事業」の支援を受けて、沖縄高専が主担当校となって2つの国際学生交流プログラムを企画・実施します。



本校の情報通信システム工学科3年の電子回路Ⅱの交流授業に参加した国立台北科技大学学生の皆さん



タイのSrinakharinwirot大学との学術協定の調印式



第10回日本語弁論大会で受賞した本校留学生

ターの活動紹介

1つ目のプログラムは8月15日(月)～24日(水)の間に、台湾の国立台北科技大学と連携して実施するプログラムで、中国語研修、文化交流、現地企業訪問などの活動が計画されています。九州・沖縄地区から13名の学生が参加することになっています。

2つ目のプログラムは8月21日(日)～9月3日(土)の間に、タイのKing Mongkut's University of Technology North Bangkokと連携して実施するプログラムで、学生交流を通じたタイ語実践学習、タイの歴史・文化の体験学習、ミニプロジェクト、企業見学などの活動が予定されています。九州・沖縄地区から12名の学生が参加します。

2016年8月15日(月)～9月4日(日)には、日本学生支援機構(JASSO)の助成で台湾の国立台北科技大学の支援のもと、3週間のプログラムにより中国語・英語融合教育と中華文化体験活動短期研修を実施します。沖縄高専の学生8名が参加します。

この他にも、2014年からスタートした「官民協働海外留学支援制度～トビタテ! 留学JAPAN日本代表プログラム～」に今年度、本校から3名の学生が合格しました。「全国大学コース(第5期)」に合格した内嶺さん(専攻科1年生)は本年9月から7ヶ月間、シンガポールの研究機関ならびにベトナム現地企業でのインターンシップを通して学びます。「高校生人材コース」に合格した宮里さん(本科3年生)は夏休みと春休みに1ヶ月ずつ、タイとネパールで農業と水資源、水質浄化に必要な技術を学び、知念さん(本科3年生)は、来年3月に3週間、オーストラリアで語学学校に通い、英語を勉強しながらオーストラリアの文化、そして環境と観光について学びます。

このように、グローバル交流推進センターでは、「トビタテ! 留学JAPAN日本代表プログラム」や「9高専連携事業」、「JST支援」、「JASSO支援」による海外派遣プログラム(経費支援を含む)をタイムリーに提供し、また国費留学生や海外からの留学生・研修生との交流の場を沖縄高専内に積極的に提供することで、沖縄高専に集う学生のグローバル交流を推進しています。



国立台北科技大学の電気・電子・コンピュータ学部の学生とモータ制御回路の実験を行った高専生の皆さん



グローバル交流推進センター長
タンスリヤボン スリヨン



トビタテ学生! 留学JAPAN日本代表プログラムに合格した本校学生の皆さん



タイからの短期研修生

平成28年度 九州沖縄地区高等専門学校体育大会の結果について

平成28年7月9日(土)～10日(日)、14日(木)～17日(日)の期間中に開催された「平成28年度 九州沖縄地区高等専門学校体育大会」において、本校から弓道部、テニス部、バスケットボール部、サッカー部、ハンドボール部、バレーボール部、水泳部、硬式野球部、卓球部及びバドミントン部が出場し、九州地区の各高专と対戦しました。

大会では各部ともに健闘し、日頃の練習の成果を存分に発揮することができました。特にテニス部(男子団体準優勝、男子シングルス優勝・準優勝、男子ダブルス優勝、女子シングルス準優勝、女子ダブルス優勝)、水泳部(男子100m自由形3位)は優秀な成績を収め、全国大会に出場する運びとなりました。

また、弓道、水泳競技にあつては、沖縄工業高等専門学校が担当校となり沖縄県立奥武山総合運動公園で開催され、多くの保護者並びに関係者の応援のもと、熱戦が繰り広げられました。



平成28年度 九州沖縄地区高等専門学校体育大会結果一覧

平成28年度九州沖縄地区高等専門学校体育大会における本校の競技別の結果は以下のとおりでした。会場まで応援に来ていただいた保護者並びに関係者の皆様に感謝いたします。

競技種目	競技結果		備考
弓道	男子団体 予選敗退 男子個人 予選敗退	女子団体 予選敗退 女子個人 決勝6位(又吉)	
テニス(男子)	【団体戦】 男子団体準優勝	【個人戦】 男子シングルス優勝 男子シングルス準優勝 男子ダブルス優勝 木村有 大城秀 大城秀・木村有 組	【全国大会出場】 男子シングルス 木村有 男子シングルス 大城秀 男子ダブルス 大城秀・木村有 組
テニス(女子)	女子シングルス準優勝 女子ダブルス優勝	小濱ちひろ 小濱ちひろ・喜納綾香 組	【全国大会出場】 女子シングルス 小濱ちひろ 女子ダブルス 小濱ちひろ・喜納綾香 組
バスケットボール(男子)	予選リーグ敗退	沖縄28-85北九州 沖縄39-47大分	
バスケットボール(女子)	予選リーグ 沖縄76-44都城 沖縄67-30熊本(熊本)	決勝トーナメント(準優勝) 沖縄62-40北九州 沖縄46-50有明	
サッカー(男子)	トーナメント1回戦敗退	沖縄 0-3 熊本(八代)	
バドミントン(男子)	【団体戦】 男子 2回戦敗退	【個人戦】ダブルス シングルス 西村・與那嶺ペア 1回戦敗退 金城・大嶺ペア 1回戦敗退 大嶺・金城・與那嶺・西村 1回戦敗退 山城 3回戦敗退	
ハンドボール(男子)	予選リーグ敗退	沖縄13-32北九州 沖縄28-12都城	
ハンドボール(女子)	女子(エキシビジョンリーグ) 準優勝	沖縄6-20有明 沖縄20-2北九州・都城	
バレーボール部(男子)	予選リーグ敗退	沖縄13-25北九州 12-25 沖縄19-25熊本 13-25	
卓球部(男子)	【団体の部】 予選敗退	ダブルス シングルス 親富祖・山城ペア 1回戦敗退 藤下・山端ペア 1回戦敗退 大城・我如古・親富祖・山城・長崎・奥間 1回戦敗退 藤下・山端 2回戦敗退	
卓球部(女子)	【団体の部】 1回戦敗退	ダブルス シングルス 川満・山内ペア 1回戦敗退 山内 2回戦敗退、川満 1回戦敗退	
硬式野球(男子)	トーナメント1回戦 2回戦敗退	沖縄 13-5 熊本(熊本) 沖縄 5-7 有明	
水泳(男子)	【男子100m自由形・決勝】3位 島袋歩(4-ic) 59" 92 全国高専大会出場権獲得 6位 新崎高弘(3-br) 1' 03" 43 【男子100m背泳ぎ・決勝】5位 山城一斗(2-ms) 1' 13" 51 【男子200m平泳ぎ・決勝】6位 宮里龍太(3-ic) 3' 08" 38 【男子400mリレー・決勝】4位 沖縄高専(島袋・宮里・新崎・山城) 4' 15" 73		【全国大会出場】 【男子100m自由形・決勝】3位 島袋歩
水泳(女子)	【女子50mバタフライ・決勝】4位 知念優奈(2-ms) 35" 39 8位 仲宗根綾乃(2-ic) 42" 80 【女子50m背泳ぎ・決勝】3位 宗前紫苑(2-ms) 38" 41 8位 仲村玲奈(2-mi) 41" 69 【女子100m自由形・決勝】8位 仲村玲奈(2-mi) 1' 16" 49 【女子100m平泳ぎ・決勝】3位 知念優奈(2-ms) 1' 30" 75 【女子200mリレー・決勝】4位 沖縄高専(宗前・中野貴稀(4-mi)・仲村・知念) 2' 15" 31		

図書館より

沖縄高専図書館では、工学、自然科学系を中心とした専門書のほか、一般教養に役立つ図書や小説、雑誌、視聴覚資料など、約7万冊の資料を所蔵しています。全て開架されているので、利用者は全ての資料を直接手にとって見ることができます。また、地域貢献のため、一般の方々にも広く開放し、閲覧・貸出等のサービスも行っています。英語多読用の図書も約1万6千冊揃えており、1人5冊まで貸出も可能ですのでどうぞお気軽にご利用ください。



○ 図書館の開館時間 (<http://www.okinawa-ct.ac.jp/toshokan/> も併せてご覧ください)

【通常期】平日 8:40 ~ 20:00 土曜 9:00 ~ 17:00 (※日曜・祝祭日は休館)

【休業期】平日 8:40 ~ 17:00 (※土日・祝祭日は休館)

○ 座席数：108席 (延面積：740㎡)

○ 蔵書冊数：約7万冊 (うち洋書約2万冊)、視聴覚資料 約1,700点

○ 雑誌：約600種 (継続購入72誌)

○ 新聞：7紙 (うち英字新聞1紙)

○ 年間貸出冊数：33,992冊 (平成27年度実績)

○ 学外者への貸出：ご希望の方へ「利用証」を発行します。
「図書館利用願」(図書館カウンターにて配布)へ必要事項を記入し、「身分証」を提示してください。

(図書館への連絡：直通 0980-55-4037)



平成28年度 人事異動について

4月1日付け異動

【採用】

メディア情報工学科 助 教 金城 篤史

【転入】

事務部長 富田 和宏
学生課 一般職員 山城 達也

【昇任】

メディア情報工学科 教 授 タンスリヤボン スリヨン
機械システム工学科 講 師 安里 健太郎
技術室 技術専門員 釣 健孝
総務課財務係 主 任 田中 瞳

6月1日付け異動

【採用】

総合科学科 助 教 カーマン マコア クイオカラニ

7月1日付け異動

【転入】

学生課 課長補佐 仲村 剛
総務課施設係 係 長 糸数 康
総務課人事係 係 長 瀬底 亜希子
総務課研究連携推進室 専門職員 成底 和浩
総務課契約管理係 一般職員 宮里 慎吾

【復帰】

総務課総務係 係 長 平良 直人
学生課教務係 係 長 伊地 信人

【校内配置換】

学生課学生係 係 長 屋宜 直行
学生課寮務係 一般職員 新垣 友実

平成28年度(後期)行事予定表

10月			11月			12月			1月			2月			3月		
1	土	県高校新人体育大会(テニス) ～3日まで ※先行開催	1	火		1	木	研修旅行(3年) 予備日	1	日	元日	1	水		1	水	追認試験実施期間 ※5年
2	日		2	水	金曜日の授業	2	金	予備日	2	月		2	木		2	木	
3	月	前学期期末試験 再試験実施期間	3	木	文化の日	3	土		3	火		3	金		3	金	
4	火		4	金	臨時休業日	4	日		4	水	開寮	4	土		4	土	
5	水	航空技術者プログラム履修者 選抜願書受付期間 ～12日まで	5	土	高専祭(登校日)	5	月	後学期中間試験 再試験実施期間	5	木	開寮式(放課後)	5	日		5	日	
6	木		6	日		6	火		6	金		6	月		6	月	
7	金		7	月	臨時休業日 ブックハンティング (図書館及び学生図書委員会)	7	水	キャリア講演会(1年合同)	7	土		7	火	本科5年・専攻科学期末試験 本科1～4年予備日	7	火	
8	土	プログラミングコンテスト (～9日まで)	8	火	月曜日の授業	8	木		8	日		8	水	本科1～4年学期末試験	8	水	
9	日	ロボコン九州沖縄地区大会	9	水	キャリア講演会(2年合同)	9	金		9	月	成人の日	9	木	本科5年・専攻科学試験返却日 後学期期末試験 再試験実施期間(5年生)	9	木	入学説明会(予定) 追認試験実施期間 ※3、4年
10	月	体育の日	10	木		10	土	専攻科社会人選抜 学生寮第5回特別大掃除	10	火		10	金		10	金	
11	火		11	金		11	日		11	水		11	土	建国記念日	11	土	
12	水		12	土	本科編入学試験 パソコン甲子園(～13日まで)	12	月		12	木	学習到達度試験 午後予備日	12	日		12	日	
13	木		13	日		13	火	学生会主催イベント	13	金		13	月		13	月	
14	金		14	月		14	水	キャリア講演会(2年合同)(第2回) 業界研究会(第1回)	14	土	本科推薦選抜 県高校新人体育大会(サッカー) ～16日	14	火	本科1～4年試験返却日 後学期期末試験 再試験実施期間 (1年生～4年生) 業界研究会(第2回)	14	火	
15	土		15	火		15	木		15	日		15	水	学生寮居室点検・清掃	15	水	
16	日	県高校新人体育大会(弓道) ※先行開催	16	水		16	金		16	月		16	木	終業式	16	木	
17	月	寮生消防自衛隊説明会(予定)	17	木		17	土		17	火	寮祭	17	金	開寮式 開寮前大掃除	17	金	
18	火		18	金	中間試験(複数同時実施科目)	18	日		18	水	学生寮月例大掃除	18	土	開寮	18	土	卒業式 専攻科修了 卒業式2部式(学生会主催)
19	水	学生寮月例大掃除	19	土		19	月		19	木	県高校新人体育大会(サッカー) ～21日	19	日	本科学力選抜	19	日	
20	木	第3回定期学生会議(仮)	20	日	ロボコン全国大会	20	火		20	金		20	月		20	月	春分の日
21	金		21	月		21	水	学生寮居室点検・清掃	21	土	専門実習による選抜	21	火		21	火	
22	土	県高校新人体育大会(ハンドボール) ～25日まで 鹿児島大会:宮古島 学生寮第4回特別大掃除	22	火	中間試験実施期間 水曜日の授業	22	木		22	日		22	水		22	水	
23	日		23	水	勤労感謝の日	23	金	天皇誕生日 閉寮式、閉寮 閉寮前大掃除	23	月		23	木		23	木	
24	月	TOEIC・IPテスト(3年生) 学生寮避難訓練(夜間)	24	木		24	土		24	火		24	金		24	金	
25	火	TOEIC・IPテスト(4年生) 航空技術者プログラム 履修者選抜	25	金		25	日		25	水		25	土		25	土	学年末休業
26	水	キャリア講演会(3年合同) キャリア講演会(4年合同)	26	土		26	月	冬季休業 冬季一斉休業	26	木	寮長・副寮長選挙 第2回寮生総会	26	日		26	日	
27	木		27	日		27	火		27	金		27	月	追認試験実施期間 ※5年	27	月	
28	金		28	月		28	水		28	土	全国高専英語プレゼンテーション コンテスト(～29日まで)	28	火		28	火	
29	土	県高校新人体育大会 ～11月1日まで	29	火		29	木		29	日					29	水	
30	日		30	水	研修旅行 予備日	30	金		30	月					30	木	
31	月					31	土		31	火					31	金	
備考		・インターンシップ報告会(各学科)	備考			備考		・校内美化清掃(学生会主催) ・ツデーマーチ(学生会参加) ・地域清掃(学生会主催)	備考			備考		・校内美化清掃(学生会主催) ・キャリア講演会(5年、専攻科2年)	備考		